

年間授業計画(シラバス)

教科・科目	数学 I	単位数 2単位	履修学年 1年
目標	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学の良さを認識できるようにする。 日常生活で、必要とされる基礎的な計算力を身に付け、その計算力を活用できるようにする。 数学の問題が解けるようになることの喜びを伝え、生徒自身が自主的に授業に参加する態度を育てる。 		
使用教材	東京書籍「新数学 I」(東書 数 I 303)		
評価の観点 評価基準	(関心・意欲・態度)	(数学的な見方や考え方)	(数学的な技能)
	<ul style="list-style-type: none"> 問題演習に積極的に取り組む姿勢を評価する。 数学的活動を通して、方程式と不等式における考え方に関心をもち、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 事象を数学的に考察し、表現できること。 思考の過程を振り返り、多面的・発展的に考えることを通して、数学的な見方や考え方を身に付けていること。 	<ul style="list-style-type: none"> 数学の基礎となる計算力を養うために問題演習の反復練習を繰り返し行う。 方程式と不等式において、事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身につけ、的確に問題を解決する。
評価方法	<p>【評価方法】 ①態度 ②提出物 ③テスト 以上の3点に重点をおき、総合的に評価を行う。</p> <p>【詳細】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○態度 ・教師の話や問題演習を行う時の態度を重視し、積極的な姿勢を評価する。 ・数学の理解度に関わらず、一生懸命問題演習に取り組もうとする姿勢を評価する。 ○提出物 ・提出物の提出期限を守ることを最も重視し、次に内容の評価に移る。 ○テスト ・基礎的な問題を中心としたテストを作成し、点数をそのまま評価点とする。 		
学期	学習内容	学習のねらい	
第1学期	1章 数と式 1節 式の計算 (1) 文字を使った式 (2) 整式 (3) 整式の加法・減法 (4) 整式の乗法	<ul style="list-style-type: none"> 文字を含んだ式の約束を確認し、正しく文字式を扱うことができる。 単項式、次数、係数、多項式、項、整式、定数項など、式についての用語の意味を理解し、同類項や次数など、整式を整理するなかで、式についての見方を豊かにする。 整式の加法・減法の仕組みを理解し、それらの計算ができる。 指数法則、単項式の乗法について理解し、さらに分配法則を用いて整式の展開をすることができる。 	
	(5) 乗法公式 (6) 因数分解 2節 実数 (1) 数の分類 (2) 根号を含む式の計算	<ul style="list-style-type: none"> 乗法公式を理解することによって、整式の展開を乗法公式を利用してより早く能率的に計算することができる。また、式の一部を1つの文字に置き換えて考えるなど見通しをもって整式を展開することができる。 分配法則や乗法公式を逆に用いて因数分解することについて理解し、因数分解の公式が利用できる。 自然数、整数、有理数、無理数の意味を理解して、それらを区別ができる。さらに、実数について理解するとともに、数を拡張することに興味をもつ。 根号を含む式の基本的な計算をすることができる。また、分母の有理化について理解し、それを活用する能力を伸ばす。 	
第3学期	3節 方程式と不等式 (1) 1次方程式 (2) 不等式 (3) 不等式の性質 (4) 不等式の解き方 (5) 不等式の利用 (6) 2次方程式とその解き方	<ul style="list-style-type: none"> 1次方程式の性質を用いて、1次方程式を解くことができる。 不等号の意味を理解し、数量の間の大小関係を不等式で表すことができる。 不等式を調べることによって不等式の性質を理解する。 不等式の性質を用いて不等式を変形することができる。さらに、不等式を成り立たせる数の範囲を求めることができる。 1次不等式を利用して文章問題を解決することができる。 2次方程式について理解し、因数分解や平方完成を用いて2次方程式を解くことができる。 	
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 「数学 I」は2年間通じて学習する。 理解度が不十分と判断された生徒には、学期ごとに補習を行う。 		